特集：牛のサルモネラ症と抗菌剤による治療*

A Symosium : Bovine Salmonellosis and its Treatment with Antimicrobial Agents

今回のシンポジウムにあたって

高　橋　　勇（日本獣医畜産大学名誉教授）

当研究会は，1953年の発足以来，毎年4月にシンポジウムを開催し，抗菌剤に関する時宜に即したトピックや，抗菌剤の基礎面あるいは応用面に関する重要な問題をテーマとして取り上げて多大の成果を収めてきたが，今回で第23回を迎えた。

周知の通り，国内における，これまでの牛のサルモネラ症の発生報告は，集団肥育牛に関するものが大部分であったが，1990年以降になって，成牛特に搾乳牛のサルモネラ症の発生が各地で認められるようになり，問題となっている。

すなわち，これまでは，成牛の場合，本菌が体内に侵入・定着しても無症状で経過し，単なる保菌牛となるものがほとんどであるとされてきた。しかし，今回のシンポジウムで取り上げるように，成牛の感染例の中には強い下痢を起し，死亡例も認められることがあり，また，搾乳牛の場合には，下痢のほかに泌乳量がかなり低下するなど，経済的損失もかなり大きいことが明らかになってきた。さらに成牛から排出された菌が環境を汚染して，子牛への感染源となるなど畜産に及ぼす被害のみならず，畜産物を汚染して，公衆衛生に及ぼす影響も大きい。

このような成牛におけるサルモネラ症への対策を確立しておくことは重要である。その手段として，畜舎や器具，汚物などの消毒のほか罹患牛の隔離や環境整備など，一般衛生対応を徹底して行うことはもちろん大切であるが，一方では罹患牛の治療対策も当然重要である。

そこで，今回のシンポジウムでは，主として成牛で最近発生したサルモネラ症のいくつかの事例について，本症の発生状況，臨床的な事項，一般的な衛生対策による防除ならびに抗菌剤による治療対策について，第一線において系統的に詳しく検討して来られた4名の方々にご講演をお願いした。その上で来聴者も加わって本件に関する問題点を討議し，あわせて今後の方策を模索することとした次第である。

各演者の方々には，ご多忙中にもかかわらず，ご講演を快諾いただいたことに対し，本会を代表して厚く感謝を申し上げます。

---

* 本特集は1996年4月5日に開催された本会主催の第23回シンポジウムの講演要旨である。